



2026年6月26日

各 位

会 社 名 株式会社 ミダックホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 加藤 恵子
(コード番号：6564 東証プライム・名証プレミア)
問 合 せ 先 取締役経営企画部長 高田 廣明
電 話 番 号 053-488-7173

既存管理型最終処分場（大平興産株式会社）における増量計画に関するお知らせ

当社連結子会社である大平興産株式会社は、同社が保有する既存管理型最終処分場（大塚山クリーンセンター）について、埋立容量の増量に向けた調整を実施することといたしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 概要

当社グループは、最終処分事業の更なる強化に取り組んでおり、この一環として当社の連結子会社である株式会社ミダックが保有する2つの既存最終処分場（遠州クリーンセンター及び浜名湖クリーンセンター）において、埋立容量の増量が完了し、供用を開始しております。

また、2025年4月に支援型M&Aの一環で子会社化した大平興産株式会社においても、同社を子会社化して以降、第三処分場第七堰堤工区の工事のため、廃棄物の搬入制限を継続していましたが、2025年11月より搬入を再開することができました。これにより、ミダックグループ10年ビジョン「Challenge 80th」で掲げた通り、関東エリアにおける事業エリアの拡大が実現しました。

そして今般、廃棄物排出量が多い関東エリアにおける埋立需要に対応するため、当社がこれまで培った経験と実績を活用し、大平興産株式会社（大塚山クリーンセンター）において、第四処分場の設置に向けた具体的な調整を図ることといたしました。本件は中長期的な設置計画ではありますが、増加する埋立容量は約130万 m^3 を計画しており、増量後の許可容量は約433万 m^3 となる予定です。これは株式会社ミダックが保有する既存管理型最終処分場「奥山の杜クリーンセンター（許可容量：約319万 m^3 ）」よりも許可容量の大きい施設となる見込みです。

当社グループは、最終処分場の受託量は順調に拡大しており、関東の重要拠点である大平興産株式会社の増量計画を遂行することで、今後見込まれる関東圏からの旺盛な埋立需要に対応するとともに、当該事業の競争力及び中長期の収益基盤の更なる強化に繋げてまいります。

なお、大平興産株式会社における最終処分場増量計画について、当社ホームページのIRニュース (<https://www.midac.jp/ir/news.html>) において、動画形式でご紹介する予定です。

2. 増量の概要

事業所	埋立容量		
	変更前	変更後	増加容量
大平興産株式会社 大塚山クリーンセンター (管理型最終処分場)	3,030,191 m ³	約 4,330,000 m ³	約 1,300,000 m ³

※増量後の数量は、計画の修正等で変動することがあります。

3. 当期の業績への影響

本件は中長期的な設置計画であり、当期連結業績への影響はありません。

以上